

「奥州市」誕生 1周年記念式典

奥州市誕生 1周年記念式典開催

「奥州市誕生1周年記念式典」は2月20日、プラザイン水沢で盛大に開催されました。式には地元選出の国会議員や県議会議員、姉妹都市の板谷利雄長沼町長など関係者ら約530人が出席し、新市誕生1周年の節目を祝いました。

副県都へ決意新たに

式典に先立って、市誕生からこれまでの1年間をスライドで振り返ったほか、市のシンボルとなる花鳥木が披露されました（花「桜」、鳥「きじ」、木「もみじ」）。また常盤小学校6年生12人が市民憲章を元氣よく朗読。

出席者全員もこれを唱和し、夢と希望にあふれるまちの発展を祈念しました。

式では、相原正明市長が「美しい自然、先人たちが築いてきた歴史・文化を大切にしながら、新市の一体感をより一層醸成し、未来へ大きく飛躍する、夢のある副県都づくりを目指していく」と式辞を述べ、県南の拠点都市としてのますますの飛躍を誓いました。

式の席上、市勢功労者と教育委員会の児童生徒表彰の「はればれ賞」など67個人・団体が表彰されました。ボランティア団体の先駆けとして活動に尽力した佐々木光子さん（江刺区）が受章者を代表してあいさつ。「受章は身に余る光栄。これからもさまざまな活動で地域に恩返しをしたい」と喜びを述べました。

目標に向かって邁進まいしん

市は総合計画の基本構想で「歴史息づく健康文化都市、産業の力みなぎる副県都」を目指すべき都市像に掲げています。この目標を達成するため4月スタートの総合計画の強力な推進行財政改革計画の着実な実行による財政基盤の安定、新市としての一体感と統一性の醸成などを重点的に進めます。さらに「副県都を目指す戦略プロジェクト」として、子育て環境ナバーワン、知識集積型都市と高度教育都市の構築、世界文化遺産を核とした文化交流と観光の3つを挙げ、このプロジェクトに積極果敢に取り組むとともに、岩手競馬の再生や水沢病院の経営改革などの重要課題に、着実な道筋と展望を切り開いていきます。



①市民憲章を元氣いっぱい朗読した常盤小学校の皆さん

②はればれ賞受賞の皆さん



③市勢功労表彰を受章し、相原市長から賞状を受け取る高橋照治さん



式辞を述べる相原正明市長

夢ある副県都へ 奥州市2年目のスタート